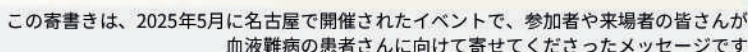


(2024年4月1日～2025年3月31日)



会長挨拶

はじめに2024年度も皆様の御支援により有意義な活動が全国で行われ、その報告をさせて頂ける事に感謝致します。

この年度「佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金」の累計助成額が1億円を超し、30年に渡り384名の方の移植費用を支援し、尊い命を救えた事は大きな社会的意義を持ちます。財政的に脆弱な民間ボランティア団体がこのような患者支援基金の運営を継続する事はとても困難な事ですが、多くの患者様と御家族の明日を繋げて来られたのも、皆様の温かい御支援有って初めて成し遂げられたものです。

当協議会の活動はこの様な患者支援基金の運営だけではなく、この報告書の表紙の「寄書き」に込められた想いにある様に全ての血液難病患者様の為の活動に取り組みたいと思います。今後共皆様の御支援宜しくお願い致します。有難う御座いました。



淡谷 俊徳

骨髄バンクとは？

骨髄バンクとは、白血病などの血液の病気で、骨髄移植が必要な患者さんと、骨髄を提供して患者さんを救いたいというドナーさん（提供者）とをつなぐ仕組みで、事業を行っている「公益財団法人日本骨髄バンク」に患者・ドナー登録をします。

全国骨髄バンク推進連絡協議会（全国協議会）では、ドナーさんを増やすためのさまざまな活動を行っています。

骨髄バンクデータ

○2024年度実績

- ・新規患者登録数 1,869人
- ・採取実施数 1,026人
- ・ドナー登録者現在数 562,452人

約2人に1人しか
移植を受けられていない

（2025年3月末 日本骨髄バンク）

全国でドナーさんを増やすための活動をしています

ドナー登録会

～2024年度の全国協議会の成果～

全国のボランティアが、献血と併行したドナー登録会を大学やショッピングモール、献血ルーム、各種イベント等で、全国各地・年間を通じて実施しています。

<実施回数>

2,999回

<新規ドナー登録者数>

13,494人

※この他にも全国の献血ルームや登録会等でドナー登録が行われています



全国各地での活動

医療講演会・いのちの授業

患者さんの療養生活を支えるため、QOL（生活の質）の向上を目的とした医療講演会や、血液疾患に関するセミナーや相談会を開催しました。

また、中学生・高校生・看護学生を対象に、「いのちの授業」として骨髄バンクの仕組みや命をつなぐ大切さを伝える授業や講義も各地で行いました。



患者さんへのプレゼント

小児科で治療を受ける患者さんを応援するため、おもちゃやオリジナルグッズなどのプレゼントを行いました。

また、手作りのケア帽子やCVカテーテルケースを贈る団体もあり、治療中の患者さんやご家族の心に寄り添う支援を続けています。



コンサート・上映会

骨髄バンクの普及啓発を目的に、毎年各地でチャリティコンサートを開催しています。

また今年度は骨髄バンク関連映画の上映会も各地で開催されました。

音楽や映像を通じて、骨髄提供の意義をより多くの方に知っていただく機会となり、温かな共感と理解の輪が広がっています。



パネル展

白血病などの病と向き合いながら、「生きたい」という切なる願いを込めて描かれた絵画やメッセージを、各地で展示しています。作品に込められた想いは、見る人の心に深く響き、命の重みや骨髄バンクの大切さを訴えかけます。来場者からは「普通の生活が送れることに感謝したい」との声も寄せられています。



患者さんを支援する基金

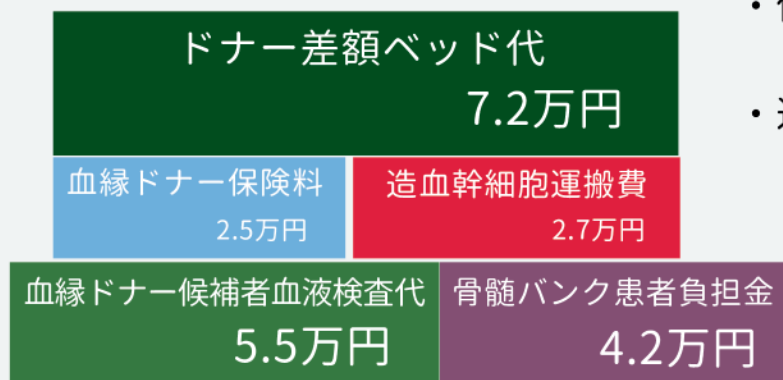
造血細胞移植 佐藤きち子記念造血細胞移植患者支援基金

造血細胞移植を受ける患者さんには医療費以外にもさまざまな経済的負担があります。
佐藤きち子さんからのご厚志を元に始まった基金は移植にかかる費用を助成しています。

2025年1月には患者さんに対する
助成金額が累計1億円を突破しました！

◎移植にかかる特有な費用

(金額は当基金 助成平均額)



- ・ 保険のきかない差額ベッド代の最高額は 22万円！
- ・ 造血幹細胞運搬費の自己負担分最高額は 14万円！

◆2024年度助成実績◆
助成件数：21件
助成金額：3,832,052円



分子標的薬治療

志村大輔基金

分子標的薬治療は長期にわたり薬を服用し続ける必要があるため、患者さんは高額な薬代（自己負担分）を何年も支払わなければなりません。

分子標的薬での治療のかたわら投薬治療費負担軽減のための活動を続けた志村大輔さんの遺志を受け継ぎ、患者さんを支援し続けています。

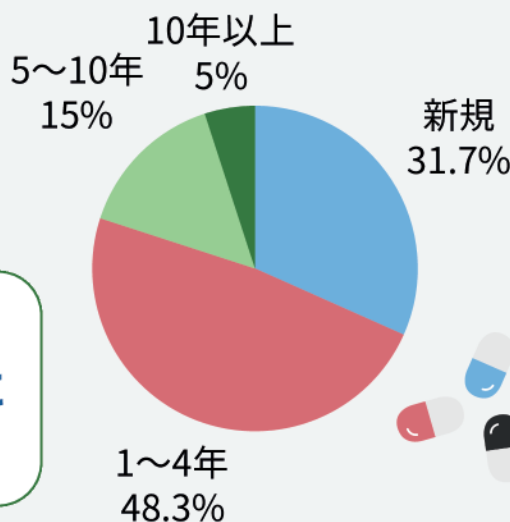
◆2024年度 助成実績◆

助成人数：62人
助成件数：113件
助成金額：5,720,000円

高額療養費上限額までの支払いを
何年間も続けるたくさんの患者さんに
継続的な支援を届けています

◎初回申請からの経過年数

(2024年度申請者を基に算出)



薬と支援、そしてバスケットが、 僕を立ち上がらせてくれた。

—分子標的薬を継続して服用している俊之さん

もう一度、コートに立ちたい—— その気持ちが支えでした

バスケットボールに打ち込んでいた俊之さん。大好きなバスケットを極めるために大学に進学した直後、白血病と診断され、夢を一度はあきらめざるを得ませんでした。

俊之さんは移植をした後、高額な分子標的薬による治療を続けています。高額療養費制度の適用があっても、毎月4万4千円の負担が生じ、経済的に大きな負担となっています。

大学入学直後に白血病にかかり、現在分子標的薬の治療を続けている俊之さん（仮名）。高額な薬代を助成する志村大輔基金に支えられ、継続して治療を受けています。

そんな中、病院で案内を受けた「志村大輔基金」の助成を受け、現在も治療を続けることができます。

まだ完全な回復には至っていませんが、俊之さんは「またプレーできるようになったら、復学してプロ選手を目指したい」と語ってくれました。

バスケットボールへの情熱が、前を向く力となっています。

痺れる手で描いてくれた
俊之さんの絵



妊孕性温存療法・生殖補助医療

若い患者さんが発症し、抗がん剤や骨髄移植などの治療をすると、不妊となる可能性があります。治療を乗り越えた未来にパパママになれるよう、精子・未受精卵子の採取保存にかかる費用を助成しています。

採取した精子・卵子は毎年継続のための保存料金がかかります。
そのための費用も助成しています。



志村大輔基金 (精子保存費用)

◆2024年度 助成実績◆
助成件数：5件
助成金額：118,825円

こうのとりのマリーン基金

◆2024年度 助成実績◆
助成件数：1件
助成金額：200,000円

自治体でも助成が受けられますが、特に高額な卵子採取の費用は自治体の助成では足りないケースが多く、また、毎年支払う継続保存料はほとんどの自治体では助成の対象となりません。これらの費用をこの基金で助成しています。

支えてくれる人がいる—— それだけで、前を向けた。

—わが子の急性リンパ性白血病治療を乗り越えて

夏風邪だと思っていたあの日が、 長い闘いのはじまりだった

白血病の診断が下ったのは、理香ちゃんが2歳の夏でした。微熱が続き、最初は夏風邪かと思っていたものの、顔のむくみやお腹の膨らみに不安を感じ、何度も病院へ通いました。

最終的に紹介された大きな病院で血液検査を受けたところ、すぐに専門の病院に行くようにと告げられ、そこで初めて「白血病」という言葉を聞きました。

現実感がないまま時間が過ぎ、ようやく実感が湧いてきたときには、お母さまは涙がとめどなく流れ、食事も喉を通らなかったといいます。

入院したばかりの頃、まだ小さくて言葉も少なかった理香ちゃんですが、入院が続くうちに少しずつ言葉が増え、「ママ、行かないで」と涙ながらに訴えるようになりました。

お母さまは、1歳上のお兄ちゃんのお世話もあるため家に帰らなければならず、毎日病院と家を往復しながら、理香ちゃんと一緒に涙を流す日々が続きました。

支えてくれる家族や友人がいても生活と治療の両立は簡単ではなく、悩んだ末にお母さまは仕事を辞める決断をされました。

助成があったから、前を向けた。 いまはただ、感謝しかありません

医療費の自己負担はなかったものの、通院の交通費や日用品の費用は積み重なり、経済的な負担は重くのしかかりました。

白血病と診断された当時、まだ2歳だった理香ちゃん（仮名）。

入院、治療、そして移植——支えてくれたのは、家族と周囲のあたたかな手でした。

佐藤きち子基金の助成を受け歩んだ日々と、その先に見えた希望を、お母さまに伺いました。



そんなときに出会ったのが「佐藤きち子基金」でした。助成を受けられたことは、支えを実感できる大きな出来事で、感謝の気持ちは言葉では足りないほどだとおっしゃいます。

理香ちゃんは昨年春に「さい帯血移植」を受け、GVHDという副作用はあるものの、今のところ軽度で経過は順調。医療チームも驚くほどの回復を見せています。

退院の日は、すべての人への感謝があふれる瞬間だったといいます。

「もっと元気になって、たくさん遊んでほしい」——

理香ちゃん笑顔とともに、母の願いは今日も未来へ向かっています。

元気になってやりたいこと

理香ちゃんのお母さまは

「理香もお兄ちゃんも子どもながらに温泉が大好きで、『温泉に行きたい』と言っています。まずは、その願いが叶えられたらいいなと思っています。」

と笑顔で教えてくれました。

医療情報提供・患者相談窓口

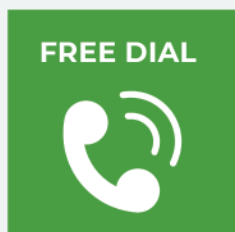


ハンドブック『白血病と言われたら』 第7版を発行

発病初期の患者さんにご家族に向けたハンドブック『白血病と言われたら』の最新版（第7版）を、2025年5月25日に発行しました。白血病をはじめとする血液難病に関する情報を網羅しています。

1999年8月の初版以来、改訂を重ね、第7版では約50名の血液内科医など専門家の協力により最新の医療情報を反映。患者さんやドナーさんの体験談も充実し、医療費助成・各種支援制度など、療養に役立つ情報もわかりやすくまとめています。

また、第6版から始めた「無料ダウンロード」は5年間で約8,000件利用され、情報提供手段として定着しました。最新版も全国協議会のホームページから、どなたでも無料でご覧いただけます。

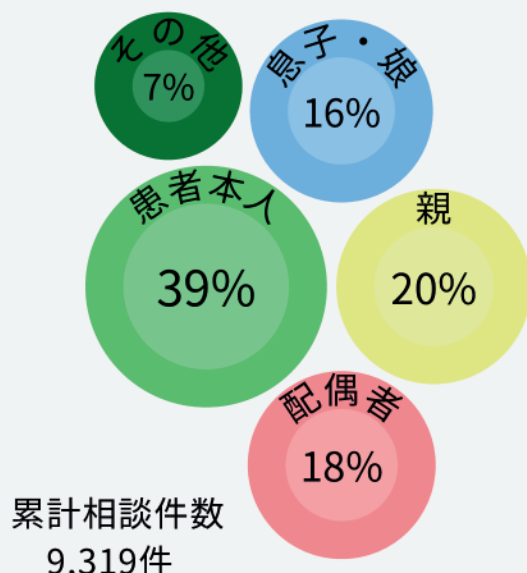


～無料の電話相談窓口～ 白血病フリーダイヤル

「白血病フリーダイヤル」は、血液疾患を抱える患者さんやご家族のための、無料電話相談窓口です。

全国協議会の患者支援活動の一環として、1996年7月に開設され、現在は毎月第2・第4土曜日に開設しています。

血液内科・小児科の専門医や、病気を乗り越えた患者や家族、医療情報に詳しい相談員が対応しています。多くの相談が30分前後に及びますが、相談者が納得できるまで、一件一件丁寧に寄り添います。



◎患者さんとの続柄

決算報告

□ 2024年度決算 □

【経常収益】 合計39,771千円

金額単位：千円

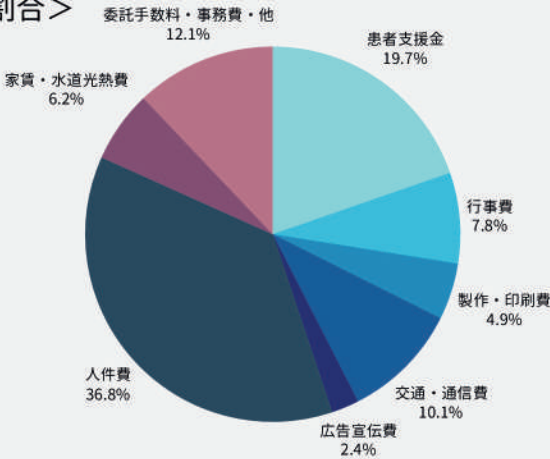
科目	2024年度決算額
会費収入	312
賛助会費	1,868
寄付金	18,547
募金箱	16,259
販売収入	2,608
その他	177
経常収益合計	39,771

【経常費用】 合計50,192千円

金額単位：千円

科目	2024年度決算額
患者支援金	9,871
行事費	3,923
製作・印刷費	2,445
交通・通信費	5,061
広告宣伝費	1,193
人件費	18,472
家賃・水道光熱費	3,101
委託手数料・事務費・他	6,063
経常費用合計	50,129
経常増減額	▲ 10,358
次年度繰越金	95,968
(うち、患者支援基金)	67,453

<費用割合>



全国の仲間たち

◆全国協議会の加盟団体◆

北海道骨髄バンク推進協会
釧路骨髄バンク推進協会
函館骨髄バンク推進協議会
青森県骨髄バンク推進協議会
骨髄バンクを支援する宮城Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
秋田県骨髄提供者を募る会
骨髄バンクを支援するやまがたの会
福島県骨髄バンク推進連絡協議会
特定非営利活動法人骨髄バンク命のアサガオにいがた
山梨県骨髄バンクを推進する会
富山県骨髄バンクを広める会
いしかわ骨髄バンク推進・はとの会
群馬県骨髄バンク推進連絡協議会
埼玉骨髄バンク推進連絡会
千葉骨髄バンク推進連絡会
骨髄バンクを支援する東京の会

骨髄バンクを支える友の会
神奈川骨髄移植を考える会
特定非営利活動法人 骨髄バンク長野ひまわりの会
岐阜骨髄献血希望者を募る会
認定特定非営利活動法人あいち骨髄バンクを支援する会
三重県骨髄バンク推進連絡会議
滋賀骨髄献血の和を広げる会
NPO法人 関西骨髄バンク推進協会
姫路地区骨髄バンク推進センター
神戸骨髄献血の和を広げる会
なら骨髄バンクの会
骨髄バンクを支援する山口の会
とくしま骨髄バンクを支援する会
NPO法人 福岡こどもホスピスプロジェクト
かごしま骨髄バンク推進連絡会議

(2025年7月現在)